

私らしく あなたらしく 一人ひとりが輝く社会へ

はあもにい1

【熊本市男女共同参画情報誌】



特集

熊本地震から10年

子どもの「静かな声」に学ぶ
誰も取り残さない防災の形

○報告

- ・令和7年度熊本市主催事業 報告
女性のキャリアアップ支援講座
令和8年 熊本市はたちの記念式典ブース出典

○講座・イベントレポート

- ・はあもにいフェスタ2025
- ・暴力防止講座「小さなSOSに気づく 生きづらさに寄り添う地域のチカラ」
- ・先輩から分かりやすく学ぶ プチ起業セミナー&座談会

熊本地震から10年

子どもの「静かな声」に学ぶ 誰も取り残さない防災の形

2016年熊本地震当時、小学生や中学生だった若者たちが抱えていた「葛藤」を、私たちはどれだけ知っていたでしょうか。性別や年齢による役割に縛られず、一人一人の尊厳が守られる防災へ。10年の時を経て届いた彼らの声に、今、改めて耳を傾けます。



男女共同参画の視点に立った 「防災出前講座」講師を無料派遣します

熊本市男女共同参画センターはあもにいには、ジェンダー視点での備えや避難生活を学ぶ「防災出前講座」の講師を派遣しています。災害時の困難は一人一人異なります。多様なニーズに気づき、配慮し合える関係づくりを一緒に考えませんか。

講座内容 災害時のジェンダー視点、多様性、避難先のDV防止など

期間 2026年5月～2027年1月(日時応相談)

対象 熊本市内の団体・グループ・自治会・企業(少人数可)

費用 無料

託児 出張託児あり
(無料。1歳～未就学児、要相談)。子育てサークルも大歓迎！

申込 希望日の1カ月前までに当センターへ電話・メールで申し込みを(複数候補日があるとスムーズです)



大人が気付かなかった子どもの声
10年越しの本音を未来の備えに

熊本地震から10年。熊本市男女共同参画センターはあもにいには、性別や年齢、個々の状況の違いに寄り添った「多様な視点の防災」を伝えるため、「男女共同参画の視点に立った防災出前講座」を市内各地で開催してきました。

多くの災害現場で共通して浮かび上がるのは、若者や子どもたちの存在が支援や配慮の輪から取り残されてしまうという課題です。慣れ親しんだ景色が一変する中で、周囲の大人の不安を察して自らの本音を閉じ込めた子どもたちは、心に何を抱えていたのでしょうか。

10年という月日を経て語られる彼らの「静かな声」には、私たちが次の災害に備えるための重要なヒントが隠されています。大人が気付かなかった声に耳を傾け、一人一人の尊厳が守られる防災の在り方を共に考えます。

「あの日」飲み込んだ本音と、今だから伝えたいこと。

10年前、熊本を襲った激震。当時、小学生や中学生だった子どもたちは、壊れていく日常の中で何を
感じ、どんな思いを抱えていたのでしょうか。大人たちが懸命に復興へ向かう傍らで、彼らが大人に言
えずに飲み込んできた言葉、そして10年たった今、子どもたちや社会に伝えたいことを聞きました。

①当時の年齢 ②当時の居住地 ③現在の職業

頑張る大人の前で、泣けなかった私

中瀬 愛優さん(24) ①15歳 ②益城町 ③熊本市職員

「本当は益城に帰るのが怖かった。
でも、長子だから自分が頑張らないと、と思っていた」

直後 習い事の帰り道に地震が起き、家の周りが壊れた景色は今でも忘れ
られません。自宅が被災し、しばらく熊本市内の親戚の家に避難しました。
その後、5月中旬まで避難所で生活しました。

当時の私 両親が弟たちの世話で手いっぱいなのを見て、「自分は我慢しな
きゃ、自分が頑張ればいい」と心に決めていました。

避難所生活で プライバシーがなく、女性用のお風呂に高学年の男の子がお母
さんと一緒に並んでいるのも嫌だった。その光景に違和感を覚えながらも、
忙しそうなお大人たちには決して言えませんでした。不安な気持ちを、同級
生と話すことで乗り越えてきました。

これからの私
次は私が支える番。頼れる
大人として、震災の経験
を誰かの力に変えていく。



「守られる側」に 貼られたレッテル

松山 凜歩さん(23)

①14歳 ②益城町 ③はあもにい職員

「女の子は一人で外に出ちゃダメ。
そんな言葉に縛られていた」

直後 住んでいた家に、「危険」の赤い紙が貼られました。母
から「今まで住んでいた家には住めなくなる」と泣きそうな声で
言われた時、安心できる居場所がなくなったと感じました。

避難所生活で 性被害防止を理由に女の子の
行動が制限される一方で、男性に対しては
根拠のない噂が立つなど、性別による「過
ごしにくさ」を感じていました。そんな中
で救いになったのは、学校の先生からの「い
つでも電話していいよ」という一言でした。

子どもたちへ

一つでいい。心細い時に自
分を助けてくれる「安心でき
るもの」を持っている。



支援制度のもろさを目の当たりに

金田 太助さん(23)

①14歳 ②熊本市東区 ③団体職員

「男として役に立たなきゃいけない。
そう自分を奮い立たせていた」

直後 自宅が教会のため、県外から物資がたくさん届きまし
た。支援に奔走する父を頼もしく感じました。物資の運び込
みなど、自分も役立ちたいと頑張りました。

当時の私 「家が無事だから」という理
由で避難所の食料配布を受けられな
かった高齢者が、泣きながら物資を
求めに来た姿を見て、支援制度のも
ろさにショックを受けました。

これからの私

大学では災害支援について
研究。10年前にもらった助
けを、今度は私が誰かへの
支援として返したい。



大人のパニックを察した

黒木 幹太さん(20)

①11歳 ②山鹿市 ③大学生

「助けを求めたら、大人をもっと混乱させてしまう。そう思って不安を飲み込んだ」

当時の私 パニックになっている大人を見て「自分が不安を口にすれば、もっと混乱させてしまう」と考え、静かに耐えていました。自分の身を守るという発想は、当時はありませんでした。

子どもたちへ
何より自分の命を一番に。そして、当たり前の日常を大切に生きていく。



「何も出来ない自分」を責めたあの日

岡田 紗和さん(23)

①13歳 ②熊本市中央区 ③大学生

「地震が怖くて、熊本に戻れなかった」

直後 あまりの恐怖に、県外の祖父母の家に避難しました。同級生が学校の片付けやボランティアをしていることを知り、自分を責めていました。母から、気持ち落ち着くまで帰らなくていいよと言われ安堵したのを覚えています。

社会へ
子どもは守られる存在であるというのを社会全体で意識する必要がある。



「日常」への不安と、見えない支えへの関心

西坂 遼祐さん(20)

①11歳 ②熊本市中央区 ③大学生

「『学校が休みで嬉しい』という言葉で複雑な感情に」

当時の私 当たり前の毎日が突然奪われ、強い不安の中にいた私にとって、周囲の「学校が休みになってラッキー」という言葉は受け止めきれないものでした。周りとの温度差に戸惑う一方で、見えないところで復興支援に当たる人たちの存在に関心を持つようになりました。

これからの私
あの日の疑問が今の指針。誰もが救われる「福祉」の形を追求したい。



取材に参加して (市民編集員の感想)

彼らは、当時、子どもである自分が大人に助けを求めたら、迷惑がかかると思ったと話してくれました。彼らは被災者への支援活動を見て、公務員になったり、大学で社会福祉を専攻したりと、その時感じた思いを胸に、着実に歩み始めています。熊本地震では、自分のこと、家族のことで精いっぱいだった私。これからは彼らとともに、地域を支えていかなければと思うようになりました。

高智穂 太郎さん

当時の子どもたちが、誰もが不安で大変だったあの状況を敏感に感じ取り、周りに迷惑や心配をかけないように行動していたことや、嫌だと思うことに声を上げられなかったこと、その状況から前を向いて自分の道をたくましく進んでいることを知り、切ない気持ちになりました。この10年の節目に、家族や周りの人たちと当時の気持ちを語り合い、今後への備えや災害が起きた際の行動について共有したいと思います。

徳永 邦子さん

コラム

子どもが「静かな被災者」にならないために



はあもにい職員
防災士／消防団員
榎育代

10年前、被災した若者たちが胸の奥に閉じ込めていた言葉。そこには、非日常と向き合う大人たちの不安を察し、自分の感情にふたをせざるを得なかった子どもたちの切実な姿がありました。「自分も頑張らなければ」役に立たなければ「周囲の期待に応えよう」としていた彼らの葛藤は、今の私たちに何を問いかけているのでしょうか。

まずは、子どもを「守られる存在」としてしっかり認めたいものです。無理に役立とうとしたりがとう。でも、今は自分の心と体を休めることが一番大切だよ」と言葉で伝え、彼らが背負った肩の荷をそっと降ろすこと。性別や年齢による「役割」にとらわれず、一人一人の尊厳や小さな声を「わがまま」と切り捨てない気持ちで、安心できる環境へとつながります。

大人が彼らの声を受け止めることで、「誰も取り残さない防災」が形づくられていくはずですよ。

SNSでの投稿募集 あなたの「声」を未来の防災につなげませんか？

熊本地震から10年。当時、あなたがどこで、何を感じていたのかを教えてください。あなたの“静かな声”を言葉にすることは、未来の災害で「若者が取り残されない社会」をつくるための大切な一歩になります。
 ※いただいた投稿の一部は、はあもにいのHPやインスタ、通信などご紹介させていただきます。

【X(旧Twitter)・インスタグラムでの投稿について】以下のいずれかのハッシュタグを付けて投稿してください。

#熊本地震10年たって言えること

#熊本地震10年わたしたちの声

Xでは…
(例)

あの時「避難所のご飯は飽きた」って言いたかった。10年後の私は今、誰もが過ごしやすい避難所運営を考えたいと思っている。
 #熊本地震10年たって言えること

あの時はもう日常が戻らないのではと途方に暮れていた。でも必ず日常が戻ってくるし、前よりもっと良くなる。
 #熊本地震10年たって言えること

Instagramでは…

当時の思い出の品や、今のあなたらしい写真を添えて投稿してください。

今号の特集記事への感想も大歓迎！
 ハッシュタグをつけて投稿してください。

パネル展開催

- 期間:4月1日～4月30日
- 場所:はあもにい1F みんなのギャラリー

～熊本地震から10年、子どもたちが語る「あの頃」そして「これから」～

特集に登場した若者たちの「生の声」が、パネルになってはあもにいのギャラリーに登場。あの日、言葉にできなかった本音や、10年の歩みを経て見つけた未来へのメッセージ。彼らの表情と言葉は、私たちに何を語りかけるのでしょうか。これからの地域と防災のあり方を共に考える1カ月です。

Pick up

広がる、女性リーダーのネットワーク くまもと女性防災リーダー育成プロジェクトRin


災害時に不可欠な「女性の視点」を防災政策やまちづくりに活かすため、地域や職場で活躍するリーダーを育成する「くまもと女性防災リーダー育成プロジェクトRin」。令和4年度から3年間にわたり、県内の女性58人(内、高校生4人、大学生1人)が、東北視察や専門講座を通して多様な視点の重要性を学ぶことができました。

現在、同プロジェクトの修了生は、女性リーダーのネットワークを活用し情報共有や地域での実践活動を継続しています。また、メンバーが地域の防災会議や各種審議会の委員へ参画するなど、女性の視点が日常のまちづくり、そして有事の備えに反映され始めています。

(運営:有限会社ミュージンプランニング
 休眠預金活用事業)



YOUTH VOICE



「Rin」修了生
 水野真衣さん(参加当時は高校生)

震災後、小さな揺れにも敏感になり、「自分や家族を守る手立てがほしい」との思いで参加。宮城県への視察では、被災地の空気を肌で感じ、何気ない日常の尊さを再確認しました。

高校生などの若い声を防災の現場に生かすには、大人も子どももお互いに『固定観念』を捨てる必要があると思います。バイアスのない柔軟な視点で対等に向き合うことが、より強い地域づくりに繋がるはずですよ。

ご意見募集中 今回の特集「熊本地震から10年 子ども『静かな声』に学ぶ 誰も取り残さない防災の形」について、あなたのご意見・ご感想をお聞かせください。宛先は巻末へ。

女性のキャリアアップ 支援講座

熊本市は女性のキャリアアップ支援事業として講座を実施しています。



デジタル分野への 就職をサポート

デジタル分野への就職を希望する女性を対象として、Webマーケティングなどのスキルを習得できるキャリアアップ講座をはじめ、キャリア相談、企業とのマッチング、インターンシップを経て、就職までを伴走する女性のキャリアアップ支援事業。今年度は29人が講座に参加。デジタル分野に就職する際に必要な知識や考え方を学びました。

この事業は、就職・転職の進め方のアドバイスやキャリア相談なども行いながら、スキル習得から就職までを一貫して支援する伴走型。参加費無料、託児サービスあり、LIVE授業×eラーニングのハイブリット形式で学習ができ「デジタルスキルを学んで、再就職したい」「育児や家事と両立できる働き方を見つきたい」という女性のニーズに合った講座を実施しました。参加者からは「学んだデジタルスキルが現場でどう生かせるか考える良い機会になった」「今後の就職・再就職に向けて意欲が高まった」といった声が寄せられ、学びを次の一歩につなげる前向きな感想が多く聞かれました。

再就職・転職を目指す
女性のみならずへ！
女性のキャリアアップ
支援事業 開始！



デートDV防止・困難な問題を 抱える女性への支援に関するブース出展

熊本市男女共同参画課では、2026年1月12日(月・祝)に開催された「令和8年熊本市はたちの記念式典」において、デートDV防止および困難な問題を抱える女性への支援に関する啓発を目的としたブースを出展しました。



当日配布した
相談カード



はたちの記念式典
ブースの様子

困った時に 一人で抱え込まないために

ブースでは、熊本市の相談窓口を掲載した相談カードを配布したほか、デートDV防止動画を上映。多くの人々が立ち寄りました。

相談カードを手にとった人の中には、「相談窓口を知っていることは大事だよ」と話す姿も見られ、デートDVを身近な問題として捉え、自分事として意識するきっかけとなりました。デートDVなどの被害にあわないことが望ましい一方で、誰にでも起こり得る問題であることから、困ったときに相談できる窓口を知っておくことが大切です。これから社会に出ていく皆さんが、困ったときに迷わず相談できることを願います。

デートDVや、困難な問題を抱える女性への支援についての詳細は、熊本市ホームページをご覧ください。



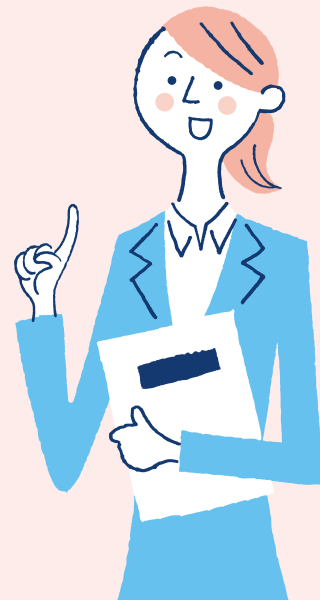
デートDV



困難な問題を抱える
女性への支援について

女性人材リスト 登録者募集

現在
159名
登録



熊本市は、誰もが平等に社会参画する機会が確保され、個性と能力を十分に発揮できる豊かで活力ある社会を目指しています。しかし女性の参画が不十分な現状があります。そこで、より多くの女性に政策・方針を決める過程への参画を促すため「熊本市女性人材リスト」を作成しています。

この人材情報は、熊本市の審議会等の委員への登用や講演会等の講師選定の際に活用されます。積極的なご応募をお待ちしています。

応募資格

18歳以上の熊本市民で、専門知識をお持ちの方、国家資格を有する方、公的機関における審議会等への就任実績がある方、講演会活動・執筆活動等の実績がある方、勤務先や各団体で社会活動やボランティア活動をしている方、市政や地域の発展に熱意を持って貢献できる方など

募集期間

随時

申し込み方法

「女性人材リスト登録票」をメールまたは郵送でご提出ください。登録票は、男女共同参画課にて配布またはホームページからダウンロードできます。



問い合わせ・申し込み 熊本市男女共同参画課 ☎096-328-2262 E-mail: danjokyoudou@city.kumamoto.lg.jp

information

男女共同参画課相談室のご案内

熊本市では、下記の相談窓口を開設しています。**相談は無料**、どなたでもご利用できます。各相談では、専門の相談員がお話を伺い、秘密は固く守られます。一人で悩まずに、お気軽にご相談ください。

	内容	相談日時	電話番号
DV相談	配偶者等からの暴力に関する相談を相談員がお受けします	 月～金曜 8:30～17:15	096-328-3322
		 いつでも可能 ※ただし、回答に1週間程度かかります	dv_soudan@city.kumamoto.kumamoto.jp
専門相談	DVに関する相談に弁護士がアドバイスします	 毎月第2、3木曜 13:00～16:00	面談には予約が必要です 予約専用電話 096-352-2587
	男女共同参画に関する法律相談	 毎月第4木曜 13:00～16:00	(月～金曜 9:00～16:00)

※ご相談は、各区福祉課でもお受けすることができます。現在、はあもにい内に相談室はございません。
※緊急時は、最寄りの警察署または110番へ。



はあもにいフェスタ2025

発見・体験・繋がる一日 可能性は無限大∞

2025年11月8日・9日の2日間、男女共同参画を楽しく学ぶ「はあもにいフェスタ 2025」を開催しました。今年のテーマは「発見・体験・繋がる一日 可能性は無限大∞」。32の市民団体が参加し、バザーやワークショップを通じて日頃の活動を発信するなど、男女共同参画や社会課題を身近に考える機会となりました。また、トークショーや講演会も開催。さまざまな年代の参加者が集い、学びを深める場となりました。



子ども向けの遊びや学びの企画もあり、会場にはにぎわいました

初日に行われた天文学者・BossBさんによるトークショーには、205人が参加しました。BossBさんは「宇宙に絶対的な正解は存在しない」と語り、社会が求める「こうあるべき」という正解の道を一度疑い、あえてそこから外れてみるこの大切さを訴えました。

BossBさんは、宇宙的な視点から「当たり前」を見直し、自分らしい可能性の広げ方について語りました



「正解」のない宇宙から
学ぶ、新しい生き方

波乱の半生を乗り越えてきた米良さんの経験談と温かな歌声が、多くの参加者の心に響き、希望をもらえる時間となりました



一斉に手放したストライキを例に挙げ「無理に合わせるのではなく、立ち止まり、声を上げるのが大切」と回答。「ジェンダー革命」は一人一人の意思表示から始まると語り「熊本から始めてみよう」と力強いエールを送りました。BossBさんは「宇宙思考」をエネルギーに語り、会場全体が自らの無限の可能性を信じ、未来へ踏み出そうと思える時間となりました。

困難を乗り越え、 ありのままの自分を歌う

2日目は、音楽家・歌手の米良美一さんによる講演会「生きながら生まれ変わる」が開催され、

287人が来場しました。鮮やかな赤いドレスで登場した米良さんは、難病で骨折を繰り返した子ども時代や、故郷・宮崎県からの依頼と勘違いしてマネージャーと喜んだアニメ映画主題歌の秘話など、波乱に満ちた半生をユーモアを交えて語りました。

支援学級に通った学生時代や、大ブレイク後の狂騒の中で自分を見失い歌えなくなった時期など、度重なる困難を乗り越えて辿り着いたのは「自分らしく生きていく」という境地でした。1時間半、立ちっぱなしで届けられた「もののけ姫」や「ヨイトマケの唄」の歌声と着飾らない言葉は、会場を深い感動で包み込みました。

未来へと広がる「繋がり」

会場では、はあもにいの取り組みに関するクイズに307人が挑戦するなど、活気あふれる2日間となりました。新しい発見と体験が新たなつながりを生み、参加した一人ひとりとついで、これからの活動や社会への関わり方に無限の可能性を感じさせる、テーマを体現したイベントとなりました。



はあもにいでは、男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会、イベントを開催しています。令和7年秋から冬に行われた主なものを紹介します。

暴力防止講座

「小さなSOSに気づく 生きづらさに寄り添う地域のチカラ」

トラウマにおける一番の解毒剤は「つながり」と説く講師



昨年10月25日(土)、地域で子ども支援や相談・福祉などに携わる人々を対象に暴力防止講座を開催。虐待や暴力が心身に及ぼす影響について理解を深めることで、個々の苦しみにどう寄り添うべきか、支援者としての在り方を考える場となりました。

講師はNPO法人レジリエンス代表の中島幸子さん。DV被害者の過酷な経験から生じる絶望感や孤独感、無力感がどのように人の心を閉ざし、トラウマへとつながっていくのか、その背景や構造について学びました。

中島さんは、苦しみの中にいる人は思いを言葉にできず、理解されないまま深い孤立に陥りやすいことを指摘しました。そんなとき、人との「つながり」が心を

を支える力になると伝えました。支援者自身の心のケアの重要性にも触れられ、会場では静かにうなずきながら話を聞く参加者の姿が見られました。

グループワークでは「全員、完全に無言で行う」というルールของเกมを実施。違和感があっても伝えられないもどかしさや、混乱の中で高まるストレスを体感することで、「声を上げられない苦しさ」を経験しました。「無言」のルールが解除された瞬間、抑えていた思いが一気に表出し、声に出せることへの安堵感で参加者の表情がふっと和らぎました。

一人一人に寄り添うことは、孤立する人を支え、暴力が連鎖しにくい地域社会を育むための基盤になると感じられる講座でした。



参加者からは「声なき声に気付きたい」などの感想が寄せられました

先輩から分かりやすく学ぶ

プチ起業セミナー&座談会

昨年11月30日(日)、「できることから無理なく始める起業」をテーマに「先輩から分かりやすく学ぶ プチ起業セミナー&座談会」を開催しました。2年前の起業講座を受講後に起業した3人が登壇し、多様な起業スタイルやリアルな経験談が紹介されました。また、短所を長所として捉え直すワークを通じ、自分らしい個性を起業にどう活かせるかを具体的に考える機会となりました。ワークを進めるうちに緊張

も和らぎ、会場は明るく和やかな雰囲気になりました。後半の座談会では、参加者がそれぞれの「やりたいこと」を共有し、意見交換を通じて新たなアイデアが生まれる場面も見られました。参加者からは「新しい視点を得られた」「話すことで起業のイメージが明確になった」といった声が寄せられ、仲間とのつながりの中で起業への一歩を前向きに踏み出せる講座となりました。



グループワークで、互いに意見やアドバイスを交わしつつ応援し合う参加者たち

3人の先輩から、講座に参加した当時の思いや、最初に取り組んだことなど、経験談が語られました



01



地震に強い 収納のきほん

松永りえ／著
扶桑社／発行

「片付け＝防災」命を守るため、 今日からできる片付け方法

熊本地震を経験し、「家の状態が生死を分ける」と痛感した整理収納アドバイザーが、災害に強い片付けと収納の工夫を提案する一冊。部屋ごとの防災対策を写真付きで紹介しており、インテリア誌のように読みやすく、思わず実践したくなる目からウロコのアドバイスが満載です。

入浴中に地震が起きてもすぐ避難できるよう「洗面所に下着を収納する」、トイレに閉じ込められた場合に備えて「ホイッスルや長期保存水を置いておく」など、日常生活に無理なく取り入れられる実践的な提案が並びます。巻末にはチェックリストや備蓄品一覧も掲載。防災への第一歩を踏み出せる心強い一冊です。

※紹介した本は、はあもにい1階情報資料室で貸し出しできます。

はあもにい
情報資料室

お
す
す
め
図
書

02



震災を語り伝える若者たち みやぎ・きずなFプロジェクト

いのちがまんなかFプロジェクト
ふるさと・復興・future
地域とともに未来に生きる

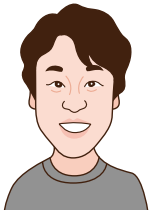
瀬成田 実／著
かもがわ出版／発行

記憶の風化に抗い、 未来を紡ぐ教育者と生徒の記録

本書は、東日本大震災を小学生で経験した子どもたちと、彼らを受け持った中学校教師による震災学習の実践記録です。中学生たちは、地元で働く人々の声を聞き、自分たちが地域の方々に守られ、支えられているということを実感していきます。その信頼感は、地域への感謝や、地元で仕事することへの希望へと変わっていきましました。震災を未来につながるものとして考えられるようになった彼らは、自ら紙芝居を作り、震災を知らない子どもたちに読み聞かせ活動を始めます。命の尊さと地域の絆を再発見できる一冊です。



編集後記



貴田 雄介 編集員

2016年4月に私は住み慣れた関西から転職のため熊本市に移住した。新しい職場に慣れる間もなく熊本地震に被災した。心配して真っ先に連絡をくれたのは阪神大震災を経験した前の職場の先輩や関西の友人だった。特集の熊本の若者たちの声を聞き、あらためてこの10年のことを思い返している。



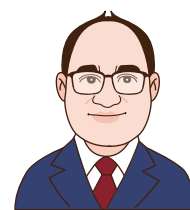
江口 香奈美 編集員

熊本地震のとき10代前半の子どもがどう感じていたのか。今号はリアルな声をいくつか掘り起こした。それは当時、既に大人だった者への深い問いとなる。同時に大人になった彼らの前へ進む力にもなっているさまに勇気を得た。この10年、前ばかり見てきた。少し振り返り思い出す企画となりますように。



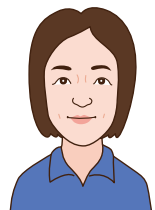
徳永 邦子 編集員

今号の特集を通して、あらためて共同参画について考えさせられました。非常時でも、自分の思いを伝え他者を慮り、弱い存在を守りながら助け合える社会であるためには、平時からの心がけと努力が必要だと思います。2期4年間市民編集員を務め、大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



高智穂 太郎 編集員

人生には3つの坂があるといいます。上り坂、下り坂、そして「まさか」。10年前、私たちはその「まさか」に翻弄されました。備えることの大切さを教えてくれた熊本地震。あつてはならない「まさか」ですが、災害から身を守るために自分ができることを、あらためてこの節目の年に考えてみようと思いました。



中津海 麻紀 編集員

今回の特集で、熊本地震の際、子どもたちが辛い気持ちや不安な思いをあまり話せなかったことを知り、胸が痛みました。被害が大きいほど、小さな被害は見過ごされ、大変そうな大人を見ると、子どもは我慢しがちだったのかもしれない。「大人が大変な時は、子どもも大変だ」と教えてくれる大切な証言だと思います。

はあもにい施設ご利用案内

- ◆開館時間 ホール・研修室等9:00～21:30 施設予約受付・情報資料室9:00～19:00
- ◆休館日 第2・第4月曜(ただし祝日の時は翌平日)、12月29日～翌年1月3日

※表記した使用料金は基本料金です。入場料を徴収するなど商業活動を目的とした使用の場合は、加算対象になります。

ホール



◎メインホール
(372席※うち車いす席8台分)
コーラスやピアノ、ダンスなどの発表、演劇公演、映画上映などさまざまな催し物に対応します。客席との距離が近い小規模ホールなので、参加型のイベントにもおすすです。



◎多目的ホール
(収容人数200人)
昇降機能を備える円形の舞台や可動式の客席で、空間を自在にレイアウトできます。小劇場の公演やライブ、展示会、ファッションショーにも最適です。

料金	時間区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	平日	7,500円	11,300円	15,000円
土・日・祝日	9,000円	13,500円	18,000円	

★冷暖房・付属設備の使用は別料金です

料金	時間区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	平日	4,000円	6,000円	8,000円
土・日・祝日	4,800円	7,200円	9,600円	

★冷暖房・付属設備の使用は別料金です

機能が充実した専用施設



◎食のアトリエ
(収容人数36人)
料理講習会や実演、食事会などにご利用いただけます。その他、飲食ありのセミナー、学習会の会場としても。

◎リハーサルA室
(収容人数10人)
バンド練習のための防音室。ドラムやベースアンプを常設しています。



◎リハーサルB室
(収容人数40人)
グランドピアノがある部屋。コーラスの練習に最適です。



◎リハーサルC室
(収容人数20人)
ダンスや演劇レッスンができる床板の部屋。ロッカー・シャワー室完備。



料金	時間区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	食のアトリエ	2,300円	3,100円	3,700円
料金	時間区分	昼食の部 (9:00～14:30)	夕食の部 (15:30～21:30)	
	食のアトリエ	3,800円	5,300円	

料金	時間区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	リハーサルA室	950円	1,300円	1,500円
リハーサルB室	2,000円	2,700円	3,200円	
リハーサルC室	2,200円	2,900円	3,500円	

会議・セミナー・研修に 会議室と研修室A・Bのみ無線LAN完備

◎会議室 (収容人数50人)



円卓のテーブル(備え付け)、マイク付きの司会台を備えた本格的な会議室です。円卓着席数26、補助席数24。

◎研修室A・B・C室 (収容人数各36人)



セミナーや会議などに利用できる研修室。各室36人定員。A室とB室は間仕切りを外せば72人まで収容できます。

料金	時間区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)
	会議室	3,700円	4,900円
研修室	2,000円	2,700円	
料金	時間区分	夜間 (18:00～21:30)	
	会議室	5,800円	
研修室	3,200円		

はあもにい情報資料室(1階)のご案内

男女共同参画、ジェンダーに関する図書、映像資料等を所蔵。その他一般図書や新聞、雑誌の閲覧もできます。お気軽にお立ち寄りください。熊本市立図書館のホームページからネット予約も可能。

利用時間 / 9:00~19:00

※熊本市立図書館カードで利用できます

※熊本市内の図書館・公民館図書室で返却できます

※貸出中やはあもにい情報資料室に所蔵されていない図書は、予約をして取り寄せることができます
(近隣市町村との相互利用、県市図書館連携貸出サービス)



令和8年度の講座案内・募集

男女共同参画の視点に立った 防災出前講座 募集

自治会、地域グループや学校、企業などさまざまな団体を対象に、男女共同参画の視点に立った防災出前講座の講師を無料で派遣します。日時・場所は応相談。オンラインでの講座も対応可。

予約 要 費用 無料 出張託児 あり

場所 熊本市内。実施場所は申し込み団体側で確保

講師 はあもにいスタッフほかはあもにい認定講師

第13期はあもにい ウィメンズカレッジ受講生 募集

多様化する社会で、あなたの活躍を応援します。今こそ知っておきたい分野の情報をアップデート! 考える力、発言する力、つながる力を身に付けて次のステージへ一歩踏み出しませんか。

日時 2026年6月27日(土)~11月28日(土)
10:00~12:30(全7回)

対象 18歳以上の女性 受講料 4000円

場所 はあもにい2階学習室他

申し込み 5月5日9時~(先着順、要申込)

詳しくは
HP▶



ホームページリニューアルのお知らせ

2025年10月1日よりホームページをリニューアルいたしました。
今回のリニューアルではより快適に閲覧いただけるよう各ページのデザインを一新し、はあもにいの取り組みについて、また施設利用についての情報を更新いたしました。
これからも、引き続きご利用の皆さまのお役に立つ情報のご提供や、内容の充実にも努めてまいります。



講座への
問い合わせ | 熊本市男女共同参画センターはあもにい ☎096-345-2550 FAX096-345-0373
〒860-0862熊本市中央区黒髪3-3-10 HP <https://www.harmony-mimoza.org>

※講座・イベントは予定です。変更になる場合があります。ご了承ください ※参加・受講には申し込みが必要です。詳しくはお尋ねください

はあもにいの最新講座情報は…

はあもにいホームページ、facebook、Instagram、はあもにい通信(毎月25日発行)、市政だよりをcheck!



◀はあもにい
ホームページ



◀facebook



◀Instagram



◀はあもにい通信
バックナンバー



発行者 編集・発行 〒860-8601 熊本市中央区手取本町1-1 熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課
〒860-0862 熊本市中央区黒髪3-3-10 熊本市男女共同参画センターはあもにい
市民編集員 江口 香奈美 貴田 雄介 高智穂 太郎 徳永 邦子 中津海 麻紀

▶ご意見・ご感想をお寄せください

◎熊本市男女共同参画センターはあもにい

✉ info@harmony-mimoza.org ☎096-345-2550 9時~19時

熊本市男女共同参画センターはあもにいの詳しい情報はこちらから

